

岩手大学御明神演習林

# 100周年記念講演会

開催日時:平成18年1月18日(水)15:00 ~ 16:30

開催場所:岩手大学情報メディアセンター 図書館(2階)

哲学者

内山 節 氏

「森の時間・人の時間」

—日本に暮らした人々は  
森に何をみてきたのか—

木  
森

問合先

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

TEL:019-621-6234 FAX:019-621-6664



内山 節(うちやま たかし)氏

哲学者

以下、現職

・立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科 特任  
教授

専門: 存在論の視点からの哲学の研究

・NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事

著書: 『里の在所』、『自由論』、『貨幣の思想史』

群馬県の山村, 上野村で一年の半分を暮らしている

## 森の時間・人の時間

- 日本に暮らした人々は森に何をみてきたのか  
現代の私たちは森に何をみているのか  
「時間」をとおして森と人との関係を考える

1. はじめに、岩大演習林の100年  
自然の100年、人の営みの100年
2. 歴史の蓄積、時間の蓄積  
歴史を育んだ人々、時間を蓄積した森
3. 自然保護と時間  
蓄積された時間の破壊という視点から
4. 屋久杉と小杉  
1000年の時間をみつめながら暮らした人々
5. 現代社会と時間スケール  
森の時間を保障できなくなった人間たち
6. かつての人々は森に何をみてきたのか  
人間の生き方の理想としての自然、あるいは「おのずから」の生き方を  
しているものへの尊敬という視点から
7. 森と「魂の還る場所」  
自然に還ることに人間の救済をみた人々
8. 森と地域社会  
「山に行く」というときの「山」とは何だったのか
9. 森が地域社会から離れたとき  
森の商品化と森林荒廃との関係を考えながら
10. 「地球環境時代」のあやうさ  
森と地域との関係をとらえなおす
11. まとめて代えて  
森の時間とともに暮らす社会をつくりだすために

